

緩和ケアニュース

第61号

解熱鎮痛剤のあれこれ



中庭の枝垂桜 Photo Takashi Imamura

公益財団法人 大原記念倉敷中央医療機構
倉敷中央病院 緩和ケアチーム
2026年3月発行

はじめに

がんと向き合う中で「痛み」は心身にとって大きな負担となります。がん患者さんの中には痛み止め（鎮痛剤）をのんでおられる方も少なくありませんが、鎮痛剤の種類やその特徴、あるいは注意点をしておくことは、安心して治療を受けるために大切なことです。今回は鎮痛剤の中で市販薬としても購入可能な「解熱鎮痛剤」について緩和ケアチームの日高八重薬剤師が患者さんやそのご家族にわかりやすく説明いたします。

解熱鎮痛剤は、比較的安全性が高く、市販薬としても売られています。正しく使うことで痛みや発熱などの症状を緩和し、苦痛を取り除いてくれる重要な味方となります。ドラッグストアや薬局などで処方箋なしで購入できるおくすりのことを「OTC 医薬品」と呼びます。近年、病院に行くほどではないと感じる軽い症状の場合は、自分自身の健康に責任を持ち、自分で手当てするという「セルフメディケーション」の考え方が普及してきました。これによって、みなさんが OTC 医薬品を購入する機会が増えており、より身近なおくすりになってきているかと思えます。

さて、がんそのものによる痛みやがんの治療に伴う痛みを緩和するために鎮痛剤が必要となりますが、医療機関で鎮痛剤の処方を受けている患者さんが「風邪をひいた気がする…」「なんだか腰が痛い…」などの理由でドラッグストアで購入した「風邪薬」や「痛み止め」などの OTC 医薬品を使用した場合、知らず知らずのうちに薬の成分が重なったり、過量内服になってしまう可能性があります。

【解熱鎮痛剤とは？】

みなさんは「解熱鎮痛剤」と聞いて、どのようなおくすりを思い浮かべるでしょうか？カロナル®やロキソニン®というおくすりの名前を耳にしたことがあるかもしれません。カロナル®やロキソニン®といった、「熱をさげるはたらき」と「痛みをとるはたらき」のふたつのはたらきをもつお薬を、まとめて「解熱鎮痛剤」と呼んでいます。



【解熱鎮痛剤の種類】

解熱鎮痛剤は大きく分けると、次の2つの種類があります。それぞれの種類の解熱鎮痛剤について、特徴をご説明いたします。

1.アセトアミノフェン

主に中枢神経系に作用することで、熱を下げたり、痛みの原因となる物質の生成を抑えたりすることで効果を発揮します。

- 熱を下げる作用と、痛みをやわらげる作用がありますが、炎症を抑える作用は少ないです。
- 胃への負担が少ないおくすりです。
- 肝臓に影響を与えることがあります。長期間使用する場合は肝機能の検査をして、肝臓への悪影響がないかモニタリングすることがあります。
- 小児も使用することができますが、体重にあわせて量を調節する必要があります。

- 代表的な薬：カロナール®、タイレノール®など。
- アセトアミノフェンという成分は、よく市販の風邪薬や鎮痛薬にも含まれています。
病院でもらったカロナール®と市販の風邪薬を一緒に飲むと、1日に内服できる最大量を
超えてしまい、過量になることがあり、注意が必要です。

アセトアミノフェンを含む風邪薬・鎮痛薬の一例：パブロン®、ルル®、バファリンJ®など

2.非ステロイド性抗炎症薬（NSAIDs）

体の中で発熱や痛みを引き起こす物質のひとつ
にプロスタグランジンという物質があります。



プロスタグランジンはアラキドン酸という物質から酵素によって作られます。NSAIDsはこの酵素の働きを抑えることで、プロスタグランジンが作られるのを抑え、熱を下げたり、痛みを緩和したりします。

- 熱や痛みをやわらげる作用だけでなく、炎症を抑える作用もあります。
- 胃に負担をかけやすいので、なるべく食後に内服する必要があります。
長期間使用する場合には、胃薬と一緒に使う場合もあります。
- 腎臓に影響を与える場合があるため、使用量や使用間隔に注意が必要です。
長期間使用する場合には、腎機能への影響をモニタリングすることがあります。
- 代表的な薬：イブ®、バファリン®、ロキソニン®など
- 成分の名前は違っても、同じ NSAIDs に分類されるおくすりは多くあります。
- NSAIDs も市販の鎮痛剤や風邪薬などによく含まれています。成分の名前が異なるからと
いって、いくつものおくすりを併用していると、実は同じ NSAIDs に分類されるおくすり
が重なってしまうことがあり、注意が必要です。

これらの2種類の成分のおくすりは、一緒にのんでも安全とされています。ただし、用法用量を
しっかりもって、正しく内服する必要があります。

【同じ成分でも名前が違うことがある？】

処方薬や OTC 薬の中には、成分は同じでも商品名が違う薬があります。
例えば、アセトアミノフェンという成分は「カロナール®」や「タイレノール®」という名前で販売され
ていたり、イブプロフェンという成分は「イブ®」や「バファリン®」という名前で販売されていま
す。

また、逆に商品名は似ていても成分が異なることもあります。例えば「イブクイック頭痛薬®」と「イ
ブスリーショットプレミアム®」はどちらも鎮痛薬として使用できますが、含まれている成分が異なりま
す。「イブスリーショットプレミアム®」には、イブプロフェンに加えアセトアミノフェンも含まれていま
す。そのため、パッケージに書かれた名前だけで判断すると、成分が重なってしまう危険性があります。
同じ成分を重ねて使い続けてしまうと、体に負担がかかることがあるので要注意です。



飲み薬だけではなく、貼り薬や坐薬にも解熱鎮痛剤の成分を含むものもあります。坐薬で使用する解熱鎮痛剤は、おしりから入れることで全身に作用します。また、貼り薬には、貼った場所だけに効果を発揮するおくすりと、皮膚に貼ることで全身に効果を発揮するおくすりがあります。貼り薬や坐薬を使用しながら、同じ成分の薬を飲むことで、成分が重なってしまう場合もあり注意が必要です。

購入の際には、商品名だけではなく、成分名を確認し、自分が普段から内服しているおくすりとの飲み合わせを確認することが大切です。困ったときや悩むときは、かかりつけの医師や薬剤師、ドラッグストアの薬剤師などに相談しましょう。

		特徴	含まれるOTC薬の一例
アセトアミノフェン	アセトアミノフェン	胃への負担が少ないが、肝機能に注意が必要。 小児でも使用できる。	カロナールA錠®・ラックル錠®・バファリンルナJ®
NSAIDs	ロキソプロフェン	炎症をおさえる作用も持つ。 胃や腎臓に負担をかける可能性があるので、 注意が必要。	ロキソニンS®・ナロンLoxy®
	イブプロフェン		バファリンプレミアム®・ノーシンピュア®
	アスピリン		バファリンA®・エキセドリンA錠®
	エテンザミド		新セデス錠®・ナロンエース®

最後に

解熱鎮痛剤は、正しく使えば症状をやわらげ、生活の質を向上させる力を持っています。薬の特徴や使い方を理解し、安心して使用することが重要です。

わからないことや不安がある場合は、遠慮なく医師や薬剤師に相談してください。皆さまの生活が少しでも楽になり、安心して日々を過ごせることを願っています。



編集後記

冬の終わりを告げる風が和らぎ、柔らかな陽の光が心地よい季節となりました。3月にはさびしい別れもありますが、4月には胸躍る新たな出会いが訪れることでしょう。皆様の日々が、満開の桜のように晴れやかでありますよう、心よりお祈り申し上げます。

発行元：公益財団法人 大原記念倉敷中央医療機構 倉敷中央病院 緩和ケアチーム

編集委員長：佐野 薫（医師）

編集委員：岡野 和真（薬剤師）笠原 真由美（事務）酒井 清裕（医師）平田 佳子（看護師）